

共一統御遺物を賜はり、金澤に御返し相成處、中にも仙源八は直に高野山へ參詣致し、御位牌を天徳寺に立てまゐらせ、法會を執行し、日牌を寄附して小松へ罷歸りけり。其旨高野山より具に前田内藏允へ申越し、また江戸まで永順方へも申來る。然るゆゑに利常卿の御耳に立ち、また御母公清泰院殿の御耳にも立ちければ、御兩方より奇特の至りと父源太左衛門へ被仰出なり。とあり。按ずるに、源太左衛門は其爲人清直にして、實義を旨となしける故に、其の子源八もまた能く父の性をうけ繼ぎて、實意を以て奉公を全うす。父子鍾を繼ぎ忠貞勵くる事なしといへるもの、是らの人をやいふならん。

○三諦山圓融寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、寛永十四年日性与申僧建立。寺屋敷者地子地に罷在。とまで記載す。明細帳には、寛永十四年卯辰高道町に創立、木綿町慈雲寺二代日性之開基之處、元文五年類焼、寛保元年五月二日許可にて、馬場五番丁今の地へ移轉とあり。舊寺地は卯辰蓮覺寺の尻地也。といへり。按ずるに、元文五年の火災は過

聞なるべし。元文元年四月七日卯辰蓮昌寺下より出火し、森下町・金屋町・春日町邊焼失の時なるべしと。又三箇屋版の六用集に、雨寶山圓祐寺とあり。中頃はかく稱せりといへり。貞享二年の由來書にも如左記載す。

由來御尋に就申上候。

一、當寺開闢は寛永十四年に日性与申僧建立仕候。今年迄四十九年に罷成候。當時居屋敷之儀は地子地に罷有候。

右之外由來并縁起・御寄進狀等無御座候。以上。

貞享二年九月廿九日

金澤卯辰法華宗

三諦山 圓祐寺日行

不破 彦三殿

富田治部左衛門殿

慈雲寺來歷書に云ふ。二代本法日性、寛永十三年退隱致し、慈雲寺を日成へ譲り、日性は高道町法華宗妙久寺之下、門口は町通りに庵室を構へ、爰に隱居有之。此隱居所建立は寛永十四年也。後一寺と成、三諦山圓祐寺と號す。然るに慈雲寺四世日蓮、慶安年中圓祐寺を京都本隆寺之直末与致し候事。とあり。右圓祐寺の舊寺地は卯辰蓮覺寺之後。也と云ふ。後淺野川馬場へ移轉す。

○庚申堂

圓融寺の庚申堂とて、金澤市中にて名高き庚申堂なり。此の庚申は來歴ある靈像なるべけれど、火災の節焼失せしか、縁起・來歷書にも傳來せず。如何なる故にや、信仰小槌を携へ來り、鑿前へ之を備へ祈誓するに、靈驗實に著明也とて、參詣人常に絶えず。世人馬場の庚申さまと呼べり。或は帝釋さまともいへりとぞ。

○御仲間町

元祿六年の土帳に、不破新佑關助六番町末御馬屋町之内。とありて、元祿の頃は御馬屋町と呼べり。改作所舊記に載せたる寛文・延寶・貞享頃の書面に、御既町火除地或は御馬屋町材木畑とある町は、犀川柿木島御既橋の邊をいへるなり。又御仲間町は犀川河上にもありて、舊藩中既係りの仲間共の組地ありて、むかしより仲間共居住せしゆゑ、御仲間町と呼び、既がりの者なるにより御馬屋町とも呼びたるなるべし。

○仲間組地跡

延寶の金澤圖に載せたる仲間組地は次の如し。

